

相続で困っているあなた！

相談先はココですよ！

終活・相続ネット
代表 田中 望

相続対策は、「間に合わなかった」「気づくのが遅すぎた」ということはあっても、「早すぎた」「やらなければよかった」ということはありません。相続は人生の中で必ず起こります。そして、それは一度だけではないかもしれませんが。また、相続対策ができるのは判断能力がしっかりとしている時ですが、例えば、認知症などを発症して判断能力が低下すると、どのような状況になると思いますか？

現在、多くの方が何の対策もしないまま亡くなっています。実は、相続対策をしたほうが良いことはわかっていても、どこに、どんなことを、相談したら良いのかわからないというのが現実のようです。さらに、今すぐやらなくても良いことはついつい後回しにしてしまい、いつまで経っても行動できない方もいらつしやるようです。そもそも多くの方は相続対策が必要で、何らかの対策を行ったほうが良いのですが、その事実気づいていない方もいらつしやいます。

本書では、あなたの状況に合わせて、どこに相談に行き、どのような対策を行うと良いか、がわかるようにしました。相続の対応は「生前の対策」と「相続発生後の対処」の2つに分けることができます。そして、この2つには、いくつかの大きな違いがありますが、さて「生前の対策」と「相続発生後の対処」では、どなたが大変な思いをされるかわかりになりますか？

「生前の対策」では被相続人(亡くなった方)が生きている時に大変な思いをして行うもので、「相続発生後の対処」は、遺族になります。そして、それにかかる労力の大きさは格段に違います。「生前の対策」をきちんと行っておけば、「相続発生後の対処」はスムーズに進みますが、そうでない場合は……。もし、相続対策は難しいし面倒だと思つて何もしなければ、そのツケは遺族が全て背負うことになります。そこで、少し理解されている方は相続対策セミナーへ行つたり、あるいはエンディングノートを手に入れたり、インターネットなどで相続について調べたりすることでしょう。ところが、なぜかピンときません。「本当にこれでいいのだろうか？」と悩み続けてしまうのです。生前の対策が進まない理由の1つに、相続に関係のある専門家が多すぎて、自分の場合は、どの専門家に相談に行けば良いかがわかりづらいということがあります。つまり、相続に関して横断的に対応できる仕組みがあまりにも少ないのです。そして、わかりやすい書籍も見当たりません。

相続に関係のある資格者は、非常にたくさん存在します。それぞれの資格者に得意分野があり、同時に対応できない(または不得意)分野もあります。もちろん、せっかく相談に来てくれたお客さんに対しては、できる限り対応します。しかし、それがなすべき対応の全てではなく、対策すべきことのほんの一部分であつたり、不要な対策になつたりする場合もあるのでピンとこないのです。

本書は9資格者の総勢10名による共著であり、それぞれが対応できることを明確にしています。中には1つの対策を複数の資格者が対応できるものもあることに気づくと思います。本書を読んだ後に、ご近所の看板を注意深く見てみてください。「相続」という文字を至るところで見つけることでしょうか。そして、その看板は相続のどの部分を解決してくれるのか、あなたはきつと理解するでしょう。本書を読んで、あなたにぴったりの専門家と対策を見つけてください。そして、本書が勇気を出して専門家に相談に行くきっかけになれば、この上なく光栄に思います。

終活・相続ネット 代表 田中望